

〈算数科〉 1年

現在の分析

〈知識及び技能〉

- ・計算は、答えが10までの既習のたし算、ひき算を間違えずにできる児童が多い。しかし、まだ計算に慣れず、誤答する児童が数名いる。また計算カード練習では、計算速度に個人差がある。
- ・単位などの問題文の特定の言葉に気付かなかったり、きちんと読まなかったりして、たし算かひき算か混同してしまう児童がいる。
- ・たし算・ひき算の計算の仕方は身に付いている。一方で「○と○で○になる」「○は○と○」といった数の合成・分解については理解度に個人差が見られる。また繰り上がり・繰り下がりに必要な10の合成・分解もスラスラ言える子とそうでない子といったように個人差がある。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・問題文を読み取り、具体的に場面をイメージして立式することが難しい児童が数名いる。言葉だけでは、式の意味を十分に理解できていないので、個別に支援する手立てが必要である。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・たし算やひき算が好きで、計算カードの練習に進んで取り組む児童が多い。
- ・教科書や計算スキルの問題を意欲的に取り組み、関心を示す児童が多い。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・数や計算について、解き方の基本型をもとにノートに解かせたり、解いた結果を読ませたりして全員が十分に理解できるようにする。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・問題文を読ませ、どんな話なのかを確認しながら、「あわせて」や「のこりは」といったキーワードになる言葉に線を引かせる。具体的な場面が思い浮かぶよう絵や図を活用したり、計算ブロックを操作したりしながら、たし算で解くか、ひき算で解くのかを考えさせるようにする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・学習問題には進んで取り組むが、誤答を怖がったり、自分の意見に自信がもてなかったりなど、進んで挙手ができない児童がいる。
- ・友達に自分の考えを伝える習慣をより付ける。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・数や計算に関して全員が十分に理解できるよう、スモールステップでの授業展開を行う。
- ・個別に支援が必要な児童には、ヒントを出したり、一緒に考えたりと個別指導をする。
- ・数の合成・分解（特に10まで）を念頭で正しくできるよう反復練習の時間を適時取っていく。
- ・「10までのたし算・ひき算」で、正しい答えが出せるまで繰り返し練習をしたり、数の合成・分解を意識させたりすることで、たし算やひき算の習熟を図る。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・たし算かひき算かを明確に捉えさせるために、図や計算ブロックを動かしながら立式をしたり、日常生活に結び付けて考えたりする活動を授業の中で多く取り入れていく。
- ・問題文を図や半具体物に置き換えて考える習慣を身に付けさせる。また、問題文はどんな話なのかを抑え、分かっていることや聞かれていることの文に着目させ、そこから考える指導をする。
- ・教材提示装置等を使い、ノート指導を徹底する。見やすいノート作りをさせることで、自分の考えをまとめられるようにする。振り返りもノートに書かせ、自己評価の習慣を付けさせる。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・発表の場面では、一人で説明する・隣の席の子に説明する・みんなの前で説明するといったように、説明の場面を多くし、自分の考えに自信をもてるようにする。
- ・「間違ってもいい。」という雰囲気作りをし、多くの子が手を挙げられるようにする。

〈算数科〉 2年

現在の分析

〈知識及び技能〉

- ・学習内容の理解に大きな個人差が見られる。
- ・計算方法については、おおその児童が理解できている。
- ・時刻と時間における知識、理解度が十分でない。
- ・点と点を結ぶ直線を引く時に、まっすぐで正しい長さの直線を引けない児童がいる。
- ・ものさしを使った長さの読み取りに時間がかかる。
- ・1cm=10mm、1L=1000mL等の単位の換算についての理解が不十分な児童がいる。
- ・長さやかさの量感が捉えられない児童が多い。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・問題文を正しく読んで立式することや、問題文を作ることが苦手な児童が多い。
- ・目先の情報ばかりに注目し、全体を捉えられていない。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・教科書やワークテストの発展的な問題にも積極的に取り組む児童が多い。
- ・文章問題を読まずにあきらめてしまう児童がいる。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・算数の学習以外でも時刻と時間の学習の理解を深めること。
- ・単位換算の理解を深めること。
- ・mmなどの細かい長さを測ったり表現したりする技能の向上。
- ・量感の育成。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・文章題の内容を正しく読み取れるようにすること。
- ・文章題の内容から、立式できるようにすること。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・多くの児童が関心を持って学習に取り組める活動内容を充実させること。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・時刻や時間については、知識を定着するために、日常生活の中で、「あと何分？」などと児童が時間について思考できる場面を意図的に組み込んでいく。教室の時計を手がかりにする。
- ・長さや水のかさなどの量的な単位については、生活科など他の教科でも意図的に単位量(1cm・1mm・1dL・1L)がどの程度のものなのかを身近なものを使って確認していく。また、測定の活動を重視し、量感を養いながら理解を深められるようにする。
- ・朝のスキルアップや授業において、計算の反復練習や長さを測ったりかいたりする時間を確保し計算力・技能を高めるようにする。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・たし算やひき算の場面をよりイメージできるよう、ICT等を活用して、問題場面を視覚的に理解させる。
- ・図や言葉を用いて、自分の考えをいかたり説明したりできるような機会を多く設定する。
- ・文章題では、増える、減る、比べるなどの違いを感じ取らせ、「なくなると」「どちらがどれだけ」などのキーワードに着目させ、イメージを十分に膨らませ、そこから考え立式できるような支援をする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・児童が「わかる」「楽しい」と感じられる授業を展開していく。個別最適に学習が展開できるように、導入で児童が取り組みたいと思えるように、提示方法やICTを活用する。

〈算数科〉 3年

現在の分析

〈知識及び技能〉

- ・長さの単位換算や2学年で学習した図形の名称など、学習を終えて間が空くと忘れてしまっていて、定着しない事項がある。
- ・時間の求め方が身に付いていない児童がいる。
- ・除法について8割定着した。

〈思考力・判断力・表現力等〉

- ・四則計算をすることが好きだが、計算の概念を理解していなかったり、計算間違えをしたりする児童が多い。
- ・答えがあっていれば正解という意識が強く、式の意味を理解しきれていない児童がいる。
- ・自分の考えを図や文で表すことに苦手意識をもっている児童が多い。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・少人数のクラス編成の方が、作業や理解の速さがそろい、発言や質問により積極的になる傾向が見られる。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・足し算やかけ算の定着が十分でない児童が2割程度散見され、着実な復習と定着を図る。
- ・10000までの数・小数・分数のしくみや2位数×2位数、あまりのある除法、重さや長い長さの単位、三角形の定義や弁別など、基礎的事項の定着を図る。

〈思考力・判断力・表現力等〉

- ・自分の考えを式や図で表し説明することができる。
- ・様々な考えの中から、よりよい考えを価値付けする。
- ・題意をつかみ、「分かっていること」「求めること」を整理したり、図に表したりする。
- ・計算を工夫したり、検算をしたりして正確に計算することができる。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・前回の学習との違いを明確に、既習事項を生かして問題解決を行う。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・授業やスキルアップ学習の時間において反復練習をする時間を保障し、計算ドリルを活用して家庭学習を習慣付ける。
- ・スキルアップ学習。家庭学習のドリル・单元ごとのテスト・テスト直し学期末のまとめテストなど、基本的な事項については繰り返し確認し、定着を図る。
- ・单元ごとに、土曜補習・水曜補習を行い、基礎的な学力の定着を図る。
- ・タブレットのドリルパークやタブレットドリルを活用して問題に触れる時間を増やす。
- ・少人数算数の利点を生かし、着実な定着に向けてコースごとに指導内容と子供の学習活動を工夫していく。

〈思考力・判断力・表現力等〉

- ・児童が多様な考えをもち、対話的な活動によってよりよい考えを求めていくような授業展開の工夫をしていく。
- ・ICTを活用し、友達のノートを書画カメラで投影したり、子どもたちのさまざまな考えの一覧を映し出したりする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・児童が主体的に取り組めるような单元計画の工夫。
- ・課題の中に、「考え方を伝える」など、必然的に思考力・判断力・表現力等に児童の意識が向くような言葉を加える。
- ・ICTを活用し、視覚に訴えるような活動を取り入れる。
- ・既習事項や算数の用語を教室掲示しておく。

〈算数科〉 4年

「大田区学習効果測定」結果の分析

- ・設問全体の校内平均正答率は79.6%であり、目標値71.6%を8ポイント上回り、目標値に十分到達した。また、全国正答率72.4%よりも7.2ポイント上回る結果となった。
- ・「数の相対的な大きさについての理解」「円の直径についての理解」で誤答が見られ、特定領域の理解が十分ではない。
- ・「測定」領域の正答率は80.2%、「データの活用」領域の正答率は77.4%で、目標値に十分到達しているが、問題の内容別で見ると、長さや重さについて説明する問題や、棒グラフを読み取ったり「何倍か」を求めたりする問題についての正答率は低い。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・かけ算の筆算の意味の理解。
- ・数の相対的な大きさの理解。
- ・円の直径や半径についての理解。
- ・棒グラフの読み取りについての理解。

〈思考力・判断力・表現力等〉

- ・考えに合う式を選び説明する。
- ・長さや重さの単位の関係を説明する。
- ・自分の考えの理由を記述し説明する。
- ・わり算の適用場面で、余りを切り上げて答えを求める方法を説明する。

〈学びに向かう力・人間性〉

- ・問題数の多さや文字の多さに慣れ、抵抗なく取り組む。
- ・記述式解答の問題を放置せず、粘り強く考えて取り組む。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・基礎的な知識と技能を確実に身に付けられるように、繰り返し問題を解く。
- ・知識や技能の定着に個人差があるので、習熟度別選択コースごとに、児童の実態に相応しい指導法を考える。
- ・定規・分度器・コンパス等の学習用具を、正しく使えるようにする。
- ・長さ・重さ・面積などの量感を養い、適切な単位を使えるようにする。

〈思考力・判断力・表現力等〉

- ・問題文を正しく読み取り立式できるよう、図を適切に活用して筋道立てて考えられるようにする。
- ・自分の考えを他者と交流し、共有する時間を設ける。

〈学びに向かう力・人間性〉

- ・身近な問題に置き換えるなど、課題提示を工夫することにより、問題解決への意欲を高める。
- ・学習のめあてに対する理解度を児童自身が把握できるよう、児童に判断基準を示す。
- ・再度同じ課題に取り組んだり、より多くの問題に取り組んだり、チャレンジ問題に取り組んだりするなど、自分の課題を的確に把握し、学びを調整しながら粘り強く取り組めるようにする。

〈算数科〉 5年

「大田区学習効果測定」結果の分析

- ・区全体の正答率よりも7.3ポイント上回った。前年比では、6.5ポイント上回った。全般にほとんどの観点において目標値を上回っている。
- ・全ての領域で、目標値より5ポイント以上高いが、「数と計算」では9.6ポイント、「図形」では9.3ポイント目標値が10ポイント以下である。
- ・問題内容別では、ほぼ目標値より5ポイント以上であった。「いろいろな形」は、目標値より2.5ポイント上回っているが他の問題に比べ低い。
- ・観点別では、「知識・技能」は8.2ポイント、「思考・判断・表現」15.2ポイントであり、目標値を5ポイント以上上回っている。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・分数や小数のしくみを正しく理解すること。
- ・図形の正確な作図が他よりも目標値を下回っていた。図形の角や性質を理解すること。
- ・四則計算を正確にできるようにすること。

〈思考力・判断力・表現力等〉

- ・言葉、数、図、式、数直線などを使って、自分の考えをまとめ、適切に表現できるようにすること。
- ・小数や分数のしくみをもとにして加減法の筆算方法を自ら考えること。

〈学びに向かう力、人間性〉

- ・問題文や資料、数値を正確に読み取り、様々な考え方で課題を解決しようとする態度を身に付けること。
- ・概数が用いられる場面や概数で表す良さを考え、日常で生かそうとする態度を身に付けること。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・用語、単位や公式などを、図を使ったり活動を通して理解させたりするとともに、振り返りを書くことで理解の定着を図る。
- ・学習した内容を教室に掲示し、基礎基本の定着を確実にする。
- ・デジタル教科書を活用し、図形等についての理解をより深める。
- ・作図道具の使い方を確認し、図形の性質をもとにして作図方法を考えさせ、作図練習の時間を確保する。
- ・朝学習や家庭学習で、小数や分数の計算練習の時間を確保し、反復練習をする。

〈思考力・判断力・表現力等〉

- ・数式、図、数直線を用いて考え、友達の考えから考えを広げ、深める時間を確保する。
- ・友達の説明や考えを聞き、自分の考えと比較し、深い学びへとつなげていく。
- ・ノートの手書き方を指導し、考えを分かりやすく整理してまとめる時間を確保する。

〈学びに向かう力、人間性〉

- ・算数の苦手な児童や困っている児童を軸に授業を展開する時間を10分位設定し、みんなで相談して解決する学習形態をとり、学ぶ意欲を高める。
- ・日常場面に関連付けたり具体物を使ったりして、学習課題を明確にして、学ぶ意欲を高める。

R7 <算数科> 6年

「大田区学習効果測定」結果の分析

- ・正答率は概ね目標値を上回っている。
- ・正答率が目標値以下の問題の中でも、図形や割合に関する問題がやや低い傾向にある。

重点課題

<知識及び技能>

- ・「多角形と円・合同」「割合」「円グラフや帯グラフ・平均」の問題について、意味理解を確実にする。

<思考力、判断力、表現力等>

- ・言葉、数、図、式、数直線などを使って適切に考えを表現したり、交流して広げたりする。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・問題文や資料から、分かっていることや問われていることを正確に読み取り、様々な考え方や方法で課題を解決しようとする。

授業改善策

<知識・技能>

- ・スキルアップタイム(朝学習時間)に基礎的な計算練習を行い、基礎計算力を伸ばす。
- ・算数少人数クラスでのそれぞれのレベルに合った発問や問題の選定を行う。
- ・朝学習や家庭学習で、反復練習の時間を確保する。

<思考力・判断力・表現力>

- ・公式や算数用語を覚えるだけでなく、その計算の意味や理由、算数用語の意味理解に重きを置いて扱う。
- ・課題解決にあたり、様々な考えを全体で取り上げ、友達の考えから学ぶ場を設定する。友達の考えを聞き、自分の考えと比較して共通点を見出したり、相違点について考えたりしながら、理解を深めていく。
- ・説明の仕方の模範を提示する。
- ・学習内容の生活での活用場面をイメージできるような課題を扱う。

<学びに向かう力・人間性>

- ・日常場面に関連付けたり具体物を使ったりして、学ぶ意欲を高める。
- ・様々な考えを取り上げ、友達の考えから学ぶ場を設ける。友達の説明や考えを聞き、自分の考えと比較し、深い学びへとつなげていく。
- ・テスト後に採点されたテストを自ら分析する時間を設け、「なぜ間違えたのか」「どこが分からなかったのか」「どんな練習が必要か」等を児童が自分で確認できるようにする。